

平成29年度第1回東北地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会
議 事 概 要

1. 開催日時： 平成29年 9月 5日（火）14：00～15：00

2. 開催場所： 東北地方整備局 大会議室

3. 出席委員： 委員長 浦井 義光 弁護士
委員 飛田 善雄 東北学院大学教授
委員 赤石 雅英 公認会計士・税理士

4. 議 事

(1) 平成29年度 東北地方整備局コンプライアンス推進計画の取組状況
(中間報告) について

(2) 意見交換

5. 各委員からの意見・質問等

【意見】

・コンプライアンス通信の発行について、不祥事等の事例を紹介するなど、インパクトも強く大変良いアイデアだと思うので是非続けていただきたい。

また、一番基本となるのは、不祥事を起こしたときに、組織は助けられないということや、自分で責任をとらなければならないということに触れたり、悪い事だけではなく良い事例を紹介していただくのも効果的だと思われる。

・不祥事を未然に防ぐためには、個人の普段からの生活の変化を上司が把握する事や、周りのみんながフォローしてあげるような環境、色々気づいた時に気軽に相談できる環境づくりが重要である。

・コンプライアンスに対する予防面のリスク管理だけではなく、実際に不祥事等が起こった際の対応についても、定期的に確認していただきたい。

【質疑応答】

◆Q1 グループ討議で良好な成果を収めているということだが、どのような工夫をしているのか。

◆A1 我々の事業で、日常起こりうるようなテーマを設定することで、一般的な意見だけではなく、忌憚のない率直な意見も出るなど、良好な方向に進んでいると考えている。

◆Q2 コンプライアンス・インストラクターの養成について、事務職に比べ技術職の人数が少ないが、技術職のインストラクターを増やす工夫が必要ではないか。

◆A2 震災前の平成22年度は、事務職10名技術職8名と、技術職もそれなりの人数がいたが、震災後は忙しいこともあって事務職の人数が多くなっている。

ご指摘を踏まえ、技術職の方にも多くセミナーを受講していただく工夫をしていきたい。

6. 整備局からの発言

本日は、大変貴重なご意見をいただいた。

気づいたときに気軽に相談できる環境づくりの重要性や、コンプライアンス通信では良い事例も紹介した方がよいなど、色々ご意見をいただいた点について検討し、推進計画の中にも反映させていきたい。

引き続き、コンプライアンスの意識を一層高めていく必要があると考えているので、今後ともご指導の程よろしくお願ひしたい。